

第8回富良野市総合戦略有識者会議 議事録

■開催日時 平成30年10月24日(水) 午後2時00分～午後4時10分

■開催場所 富良野市役所 大会議室

■出席者 <委員> 北会長、荒木委員、鈴木委員、菊地委員、大野委員
松村委員、佐藤委員、中里委員、近藤委員、原田委員
飯沼委員、西本委員、藤田委員

(計13名)

※欠席委員 鎌田委員、竹森委員、小林委員、小川委員

(計4名)

<事務局> 稲葉総務部長、山下市民生活部長、若杉保健福祉部長
後藤経済部長、吉田建設水道部長

西野企画振興課長、入交企画振興係長

1. 開会(午後2時00分)

2. 市長あいさつ

- ・平成26年に“まち・ひと・しごと創生法”が施行され、平成27年度に5回の総合戦略有識者会議を開催し、富良野市としての総合戦略を策定してきたところです。
- ・当初、目的としていた人口減少に歯止め、あるいは都市部に流れる人口を地方に向けることができていない状況にある。
- ・委員皆様のご意見をいただき、実効性のあるものにしていきたいと考えている。

3. 新委員の紹介

※以降は、設置条例第5条に基づき、北会長が進行。

4. 議題

(1) 平成29年度取り組みの検証について

事務局より資料に基づき説明。

○出席委員からの提案等

【荒木委員】 ※持参資料により説明

- ・2018年3月に社人研が発表した将来人口推計によると、前回発表した内容より更に人口減少率が大きく、年少人口及び生産人口は2045年には現在の半数以下となり、富良野市が策定した人口ビジョンの前提が崩れている。
- ・明確な数値目標を持ち、具体的な政策を打っていく必要があり、生産人口の減少を今後8%以内に抑えることを目標とすれば、年少人口の増加も見込めるのではないか。
- ・具体策としては、進学による奨学金を拡充し、市内就職による奨学金免除を活用した地元企業への就職を促す。移住者に対し、住居手当の支給や創業者支援の充実を図る。IT産業等の企業を誘致する。子育て支援は、小中学校までの医療費無料化、誕生祝金を第1子から支給、子ども達が遊べる施設の設置、子ども達の預かるシステムの拡充が必要ではないか。

【西本委員】 ※持参資料により説明

- ・地方創生を実践している木下斉氏の言葉で、「地域で異なってくる住む人々の数、年齢、生活環境に合わせて自治体の経営を見直さなければならない。」とあるので、このことを念頭においた議論が必要ではないか。

○質疑応答・意見交換

【西本委員】

- ・説明資料において、人口動態には外国人はどの位いるのか。

【西野企画振興課長】

- ・資料には外国人は含んでいる。今後は外国人を分けてデータ分析を行いたい。

【近藤委員】

- ・ファミリーサポートセンター事業は、子育て支援としては非常に良いことで、これからは大切なものだと感じている。平成29年度215件の利用実績があるが、どういった内容の利用が多いのか。

【山下市民生活部長】

- ・利用状況としては、保育施設の保育開始前までや保育終了後の子どもの預かり、保育施設までの送迎、学童保育センター終了後の子どもの預かりが中心となっている。

【飯沼委員】

- ・ファミリーサポートセンター事業において提供会員として活動しているが、利用料金が1時間600円と高く、利用できる人は収入のある人である。
- ・元気な高齢者が多くいるので、その人達を活用して、低料金で預かるシステムを考える必要がある。

【荒木委員】

- ・預ける形がタダに等しい位でないと厳しいので、所得の高くない世帯の利用しやすい環境が必要である。

【飯沼委員】

- ・預ける場所を用意してくれれば、手伝う高齢者は一杯いる。

【荒木委員】

- ・お金を掛けるのではなく、市民参加の中で、行政が如何にバックアップできるか。

【飯沼委員】

- ・誰が一番喜ぶかということ子育て中の母親である。子ども達は未来の財産なので豊かな環境で育ててあげたい。

【北会長】

- ・富良野市も総合的な子育て支援を、部署を横断的に議論している。ファミリーサポートセンター事業の使いやすさや病児・病後児の対応なども検討していきたい。

【飯沼委員】

- ・病児・病後児の対応は、現在のファミリーサポートセンター事業の中でも緊急預かりができるが、医療アドバイザーが必要となるので、体制の整備が必要である。

【松村委員】

- ・元気な高齢者が人の役に立ちことでの幸福度を高めることができるので、高齢者がサービスを受けるのではなく、提供する側になると良い。
- ・元気な高齢者が活躍する場は、公共（行政）が用意し、運営は民間（住民）が担うことで、責任の所在を明確にする必要がある。
- ・まちなか居住促進事業を実施するにあたり、空家の状況はどうなっているのか。

【吉田建設水道部長】

- ・空きアパートは40数件ある。アパートは新しい物件から埋まっている状況である。
- ・現在、道補助による空家調査を行っており、実態を把握する中で制度の枠組みについては検討していきたい。

【松村委員】

- ・まちなか居住促進事業は、引越助成ではなく、老朽アパートが建て替わるような方策が必要ではないか。
- ・良いアパートは高いことの見える化、ダメなアパートは値が下がるなど市場原理が機能するような仕組みが必要である。
- ・まちなか居住は、ターゲットを明確にする必要がある。
- ・出会い総合サポート事業のヘソマラニックは、企画運営を通し、接する機会を増やす取り組みは素晴らしいが、実績はどうだったのか。

【山下市民生活部長】

- ・活動をきっかけに2名の方が交際に発展した。イベントの準備期間が長く、準備も大変だったことで取り組む中での反省点はあった。

【松村委員】

- ・少子化対策に対する認知度の結果が出ているが、子育て世代が何を求めているかのアンケートを行ってみてはどうか。

【荒木委員】

- ・アンケートの実施にあたっては、ターゲット毎に何を求めているのかのニーズを把握する必要があり、それを施策に反映していかななくてはならない。

【原田委員】

- ・子育て問題（医療費、遊び場等）はスピード感が重要であり、次年度、何をやるのか、何を優先させるのか、判断していく必要がある。

【菊地委員】

- ・結婚が晩婚化しており、結婚したい方をどうサポートとしていけるかが大事である。
- ・少子化対策に対する認知度において、他自治体の情報をあって初めて比較ができることもあり、事業に関係ない人にも知ってもらう位の取り組みが必要ではないか。

【山下市民生活部長】

- ・結婚したい方のサポートについては、出会いの機会の創出をこれまでの取り組みの反省を行い、道などの関係機関と連携し、実施していきたい。

【稲葉総務部長】

- ・少子化対策に対する認知度においては、アンケートを踏まえ、事業内容をもっと周知していく必要があると考えている。

【荒木委員】

- ・結婚サポートを考える上でも、生産人口を増やすことが重要である。

【西本委員】

- ・メディアの使い方の勉強も必要ではないか。広報に載せるだけでなく、SNSの活用や新聞社への情報提供などを行う必要がある。

【藤田委員】

- ・企業誘致の観点の中で、日本語学校の誘致を行ってはどうか。学生や教員による人口増、雇用対策や経済効果などが見込めるのではないか。

【荒木委員】

- ・富良野緑峰高校の観光学科はどうなっているのか。

【稲葉総務部長】

- ・具体的な状況にはないが、道教委では富良野の特性にあったカリキュラムを組み込みたいとしている。

【松村委員】

- ・東川町の日本語学校では、人口増の効果もあるが、住民が関わることでの意識の変化が見られる。
- ・東川町は、移住起業家呼び込んでおり、5年間で120組が入り、80組が残っている状況にある。空家の利用など住みたいと思わせる状況も作り出している。
- ・富良野市はブランド力があるが、市民がそれを感じているか。市民が変わらないと町も変わっていかないのではないか。

【中里委員】

- ・観光において、ベトナムへのトッププロモーションを行っているが、2017年は北海道と韓国の直行便が就航された年である。富良野市においては韓国人観光客が伸びていない。全道的な観光施策とリンクさせる必要があるのではないか。

【鈴木委員】

- ・ベトナムは、まだ所得が低い人口は増加している現状にあり、将来的に観光客を呼び込める可能性を秘めている。
- ・子育て支援については、医療費の問題は良く耳にするので、待ったなしの状況ではないか。

【佐藤委員】

- ・専門学校誘致ができないか。旅行・観光・ホテルのキーワードで検索すると道内に7校あり、その内6校は札幌にある。富良野市では実習体験もできることから、若い学生を呼び込み、就職してもらう流れが作れるのではないか。

【北会長】

- ・学校誘致の関係はハードルが高いが、少し検討していきたい。

【松村委員】

- ・三笠高校や音威子府高校のように、同世代の人数が毎年ある程度確保されるのは大きく、教育をまちづくりの要素として組み込むことは重要である。
- ・今の時代、行政を褒めない。褒められることを積極的に見せる必要がある。

【大野委員】

- ・上川管内を見ている中で、富良野市は観光など他から見ると優位性がある。
- ・前回の有識者会議で、生産人口を呼び戻す取り組みで、市外に進学した学生に対しダイレクトメールを送付する話があったが、状況はどうなっているか。

【荒木委員】

- ・親と子に求人案内を送付していいか確認をしている。初年度70名の承諾書をとったが、もっと精度を高めて、地元へ呼び戻す施策を打っていきたい。

【北会長】

- ・長時間に渡り、貴重な意見・発言をいただき、ありがとうございました。
- ・子育て支援や若年層の定住定着については、検討中の部分もありますが本日いただいた意見も参考にし、来年度事業に反映できるものは対応していきたい。

5. その他

- ・特になし

6. 閉会（午後4時10分）